

棚田自慢隊

『かかわり合う』

〈実践〉

10月3日、度重なる台風の襲来やイノシシによる獣害の心配もあったが、無事稲刈りを迎えることができた。子どもたちはかまで稲を刈って、思っていたよりもスパッと切れる感触が楽しかったようである。刈った稲は10株ごとの束を作り、わら縄で縛り、「はで」にかけて乾燥させた。また、稲刈りの後、田んぼに入り生物観察とフィールドワークを行った。子どもたちは、棚田に生息する生き物を見つけて喜びの声を上げ、夢中で目を輝かせて観察していた。また、フィールドワークでは棚田の景観を守るための工夫や昔から残っている建物を実際に自分の目で見て、地域の方のお話を真剣に聞いていた。



〈稲刈り〉



〈はで〉



〈束ねてはでで乾燥させる〉

〈結果と考察〉

『かかわり合う』では、実際に稲刈りや棚田でフィールドワークを行うなど、体験活動を重視して学習を進めた。そうしたことで、それぞれの活動に子どもたちは一生懸命に取り組む、棚田にも興味をもち、積極的に学習に取り組むことができているように思う。また、パンフレットづくりの様子を見てみると、伝えたい棚田のよさを、実際に自分が棚田に行き行って感じたことや目にしたことから考えている児童もいた。時間に限りはあるが、実際にその場へ行って体験学習を行うことの大切さを痛感した。

『伝え合う』ための自己表現力やコミュニケーション力の育成

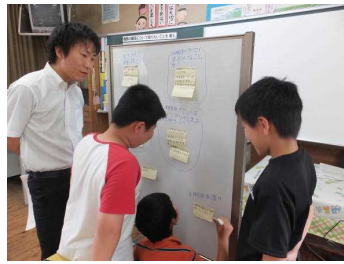
〈実践〉

これまでに檜原の棚田について調べたことを基にし、2学期に上勝の棚田のよさを伝えるパンフレットづくりを行った。そこで、パンフレットを読んだ人に棚田の魅力がきちんと伝わるように、パンフレットに載せる棚田のよさとその理由を一人一人ですっきりと考えさせ、友達に伝え合わせた。まずは、棚田のよさを付箋に書かせ、その後、KJ法を活用しホワイトボードに整理させた。一枚の付箋には一つの内容を書くよう指導し、できるだけたくさん考えさせた。また、グループでの話合いの時には、付箋に書いたことを声に出して読みながらホワイトボードに貼り、理由もしっかりと伝えるように指導した。

その際、2つのグループの意見を1つに整理したかったので、画用紙に子どもたちから挙がった棚田のよさをマジックで書き、黒板に掲示した。そのようにして、グループの話合いの結果を1つに整理した。そして、自分が載せたい順にランキングを付けさせ、理由とともに発表させた。子どもたちは、一生懸命自分の考えを友達に伝えていた。



〈付箋の活用〉



〈KJ法の活用〉



〈ランキング法の活用〉

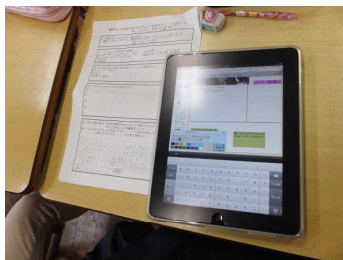
〈結果と考察〉

『伝え合う』では、パンフレットに載せる棚田のよさとその理由をグループや全体で話し合わせた。その際に、比較、分類、情報収集、選別など様々な情報処理の場を多く設定した。KJ法を活用して話し合いをしたことで、コミュニケーション力にも高まりが見られたように思う。また、ランキングを付けさせたことで、棚田のよさについての話し合いも深まり、よりよいパンフレットになるよう内容の精選を行うことができた。

『高め合う』ための活動や評価の充実

〈実践〉

子どもたちに、タブレットを使ってパンフレットのレイアウトを考えさせた。まず、一人一人レイアウトを考えた。子どもたちは、パンフレットを読んだ人の目を引きやすいように、文字を大きくしたり字体を変えたりなどの工夫を凝らしていた。また、写真を入れたり手書き文字を取り入れたりしている児童もいた。その後、それぞれのレイアウトの工夫について発表をさせた。そして、友達のレイアウトを見てよかった所と改善点、疑問点の3つを考え、タブレットに書き込んだ。内容ごとに3色の付箋を使い分け書き込ませたことで、視覚的にもわかりやすく、聞いている人もわかりやすかった。また、一人一人のタブレット上に表示されているので、見やすかった。全員でレイアウトを共有し、効果的な表現方法を考えることができた。



〈タブレットの活用〉



〈レイアウトの作成〉



〈レイアウトの共有〉

〈結果と考察〉

『高め合う』では、ゲストティーチャーに聞きたいことやパンフレットのレイアウトを考える際に、子ども同士で考えを伝え合う場を多く設定した。KJ法を活用し自分の考えを伝え合わせたことで、それぞれの考えを深め、次の学習や活動に向けて考えを高め合うことができた。しかし、生活に生かす所までは十分にできなかったので、今後、友達の考えのよさに気づき、日常生活でも友達のよい所を取り入れながら生活できるように工夫したい。